

農学部カリキュラムマップ（令和6（2024）年度入学用者）

DP	1年次	2年次	3年次	4年次
a 言語運用能力	基礎的知識を修得する	コミュニケーション能力を修得する	プレゼンテーションスキルを修得する	専門分野における言語運用能力を修得する
	外国語 (Comm. English I, II, 初修外国語)	Basic Biology Basic Chemistry 外国語 (English Writing, English Speaking)	国際英語演習 I, II, III, IV Applied Communication Studies I, II, III	International Presentation: Thesis I International Presentation: Thesis II
b 知識・理解	教養・基礎的知識を修得する 主題科目	専門分野の基礎知識を修得する 広範教養教育科目	専門分野の総合的学力を培う 高度教養教育科目	課題研究
	学問への扉 学問基礎科目 化学B 生物学B など	【先端生命科学コース専門科目】 有機化学 分子育種学 情報生物学 植物病理学 生物化学 細胞工学 機能生化学 生体防御学 分子細胞生物学 先端生命科学実験 I 応用微生物学 II 先端生命科学実験 II 応用微生物学 I 植物栄養学	【アグリサイエンスコース専門科目】 食作物学 蔬菜学 植物病理学 アグリサイエンス実験 II 畜産学 植物生態学 農業昆虫学 農業気象学 園芸利用学 農業経済学 植物品種開発学 果樹学 動物栄養学 花卉学 アグリサイエンス実験 I	【フィールド環境コース専門科目】 生物化学 土壌環境学 沿岸生産環境学 農業昆虫学 海洋科学 天然物化学 水産環境学 フィールド環境実験 II 水環境科学 機器分析化学 動物生態学 植物生態学 フィールド環境実験 I
c 課題解決力・問題探求力	基礎的問題解決法を学ぶ	専門分野の理解を深める	演習・実験を通して、探求力を養う	具体的課題に取り組み、総合的学力を高める
	大学入門ゼミ 情報リテラシー	基礎生物化学 応用生物科学実習	各コース実験 I 畜産学 細胞工学 土壌環境学	各コース実験 II 課題研究 フィールド実習 I フィールド実習 II インターンシップ実習 農業技術特別実習 食品産業キャリア演習 応用生物科学領域の倫理 公衆衛生学 応用微生物学 II
d 倫理観・社会的責任	社会的責任や倫理観の基本的知識を修得する	社会的責任や倫理観の理解を深める	社会的責任や倫理観の理解を深める	社会的責任や倫理観の理解を深める
	ライフデザイン 健康・スポーツ 応用生物科学概論 環境科学	ベーシック国内・海外サービスマーケティング・プログラム	食品関係法規 現代応用生物科学 インターンシップ実習 応用生物科学領域の倫理	アドバンスド国内・海外サービスマーケティング・プログラム
e 地域理解	地域社会に関心をもつ力を養う	地域社会における諸課題の理解と解決の力を養う	地域社会における諸課題の理解と解決の力を養う	地域社会における諸課題の理解と解決の力を養う
	ライフデザイン 特別主題（地域）	農学入門	うどん学 インターンシップ実習	希少糖学 オリブ学 現代応用生物科学 応用生物科学領域の倫理

- 全学共通科目
- 導入科目
- 共通基礎科目
- 共通展開科目
- 先端生命科学コース専門科目
- アグリサイエンスコース専門科目
- フィールド環境コース専門科目
- バイオ分子化学コース専門科目
- 食品科学コース専門科目
- 特別講義、共通コース専門科目

令和6年度入学者用 カリキュラム・マップ説明文

a 言語運用能力

全学共通科目の「外国語」により基礎となる語学力向上を図ります。続いて学部開設科目である「科学英語」においてグループワークを基礎として専門英語の知識とプレゼンテーション能力の向上を、さらに留学を志向したより高度なプレゼンテーション能力の養成のための「実用英語」、セミナー形式での「専門英語」を連続して受講することにより、農学における専門英語運用能力を獲得します。加えて高度な英語コミュニケーション能力を身に付けた農学専門人材を輩出するための国際科学コミュニケーションプログラム（1年次から4年次まで）の関連科目として、「Basic Biology」や「Basic Chemistry」も開設しています。また、日本語運用能力は、cで示した問題解決・課題探求能力を養う科目の中で段階的に身につけます。全学共通科目の「情報リテラシー」と「大学入門ゼミ」では、さまざまな情報を収集・分析し、適切に判断する能力、それらをモラルに則って運用する能力を養い、cで示した問題解決・課題探求能力の養成にもつなげます。

b 知識・理解（21世紀型市民及び学士（農学）として）

基礎となる幅広い視野と知識獲得のため、全学共通科目（学問への扉、学問基礎科目、主題科目等）を学び、農学的視野・視点を涵養するため、1、2年次に学部導入科目ならびに学部共通基礎科目を履修します。その上で2年次後期から農学の課題解決に必要な応用科学的知識・技能を修得するため、5つの専門コースに分かれた専門科目及びコース実験・実習を履修します。講義形式による知識の獲得と実験・実習形式による具体的技能修得を組み合わせることで、より総合的な知識の獲得と実践的な知識の理解を達成します。

c 問題解決・課題探求能力

全学共通科目の「主題科目」や「大学入門ゼミ」、及び「情報リテラシー」において問題発見・解決の方法を学び、2年次の「応用生物科学実習」により専門分野の理解を深め、2年次及び3年次に学部専門教育を受けて「コース実験」により専門知識と技能を修得した上で、3年次前期から課題研究に取り組みます。課題研究は、研究室単位の少人数教育で実施され、生物資源の生産と活用に関わる諸分野における課題の抽出、解決方法の決定、分析・解析を経て一定の結論を導く高度なPBL（Project Based Learning）型教育を通して、問題解決・課題探求能力を身につけます。

d 倫理観・社会的責任

全学共通科目の「ライフデザイン」において21世紀型市民としていかに生きるかを学び、一定の農学部専門教育を受けた上で3年次配当の「応用生物科学領域の倫理」や「現代応用生物科学」を含む展開科目を履修することで、農学における倫理観を身につけ、かつ社会的責任の自覚を養います。これらの科目はグループワークを取り入れた講義形式で行われ、農学における倫理観・社会的責任をより深く理解し、身につけます。さらに国際感覚の涵養のために1年次に「国際英語演習」並びに国内・海外サービスラーニングプログラムを、高年次向けの展開科目の中に国際関係科目を開設しています。以上の一連の科目は、高い倫理性、社会的責任の自覚、更には国際感覚を持ち、社会において問題解決・課題探求能力を発揮する基礎となります。

e 地域理解

全学共通科目の「ライフデザイン」で地域理解への動機づけがなされ、2年次の「農学入門」などの一定の学部専門教育を受けた上で、高年次配当の「現代応用生物科学」、地

域資源学シリーズ科目（「オリーブ学」，「希少糖学」，「うどん学」）を含む展開科目を履修することで地域産業と農学の関わりを理解します。これら地域理解科目では，講義の目的に応じて講義，実習，グループワークなど様々な教授方法が取り入れられ，より実践的に地域の課題を理解します。さらに全学共通科目の「主題科目（特別主題：地域）」や学部開設科目の「インターンシップ実習」により実践的活動を通して地域を理解します。